

实用旅游日语教程系列

西南少数民族地区 日语导游教程

主编 李 丽
审校 山口八郎



 南京大学出版社

中国少数民族语言研究

西南少数民族地区

日语学习指南

编者
[姓名]

出版
[出版社]

发行
[发行所]

地址
[地址]

电话
[电话]

邮编
[邮编]

网址
[网址]

ISBN
[ISBN]

定价
[定价]

印数
[印数]

日期
[日期]

版次
[版次]

印次
[印次]

印地
[印地]

印长
[印长]

印宽
[印宽]

实用旅游日语教程系列

西南少数民族地区 日语导游教程

主编 李 丽
编者 (按姓氏笔画为序)
文 莹 刘玉茹
李 岸 胡 江
胡启敏 姚武强
审校 山口八郎



南京大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

西南少数民族地区日语导游教程 / 李丽主编. — 南京: 南京大学出版社, 2013. 12

实用旅游日语教程系列

ISBN 978-7-305-12568-3

I. ①西… II. ①李… III. ①导游—日语—高等学校—教材②少数民族—民族地区—导游—西南地区 IV. ①H36②K928.97

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2013)第 295051 号

出版发行 南京大学出版社
社 址 南京市汉口路 22 号 邮 编 210093
网 址 <http://www.NjupCo.com>
出版人 左 健

丛 书 名 实用旅游日语教程系列
书 名 西南少数民族地区日语导游教程
主 编 李 丽
责任编辑 沈清清 刘建娥 董 颖 编辑热线 025-83686029
责任校对 沈清清

照 排 南京南琳图文制作有限公司
印 刷 丹阳市兴华印刷厂
开 本 787×1092 1/16 印张 11.5 字数 235 千
版 次 2013 年 12 月第 1 版 2013 年 12 月第 1 次印刷
ISBN 978-7-305-12568-3
定 价 32.00 元

发行热线 025-83594756 83686452
电子邮箱 Press@NjupCo.com
Sales@NjupCo.com(市场部)

* 版权所有,侵权必究

* 凡购买南大版图书,如有印装质量问题,请与所购图书销售部门联系调换

序 言

贵州省旅游局局长 傅迎春

当前,我国旅游正迎来一个前所未有的黄金发展时期,旅游业在国民经济中发挥出越来越重要的作用。在此背景下,入境旅游市场也呈现出令人欣喜的蓬勃发展态势,根据国家旅游局的最新统计数据,日本目前已成为我国入境旅游的第一大客源国。

长期以来,贵州与日本的旅游机构及企业建立了友好互信的合作关系,开展了形式多样的交流互动活动,旅游业务的合作领域不断拓展。特别是凭借独一无二的自然生态与人文环境,贵州正在成为备受海外游客青睐的观光胜地。对于日本游客来说,贵州可谓是一片不可多得的神秘净土,在这里,保留着中国最古老的农耕文化,这里的人们代代相继地保护、传承着令人感动的自然和文化遗产,就是这样一个原生态的秘境吸引了越来越多日本游客的目光。随着贵州旅游在国内外知名度的不断提高,为了适应不断变化的客源市场、满足消费者的品质需求,培养更多优秀的外语导游成为很紧迫的任务。

由贵州大学日语系组织全国多所高校的优秀日语教师,在多位日本专家的协助和指导下编写了这套实用旅游日语系列教材,内容精练,实用性强,并且首次配备了DVD视频教材,更加直观生动,不仅向学生提供了丰富的理论知识,还通过视频向学生展现了大量的导游技巧、导游礼仪,为高素质日语导游人才的培养提供了很好的教学示范。

相信这套丛书的出版一定能为日语旅游人才的培养发挥积极作用,在此谨向该书的编写者、指导者以及为该书出版付出辛勤劳动的编辑们表示感谢。

前 言

目前的旅游日语丛书,多是面向全国著名景点的讲解和会话,且这些景点多以人文历史景点居多。对于少数民族地区的旅游景点、风情进行介绍的旅游日语丛书尚待开发。在少数民族地区的旅游业发展前景上,很多省份将旅游经济的发展作为支柱产业来抓,但日语导游极少,难以满足旅游经济发展的需求。日语导游严重匮乏,仅以贵州省为例,据相关部门调查,贵州的导游人员中只有18名持有导游证的日语导游。

为适应南方少数民族地区旅游业的发展,开发一套导游教材,使之既适用作南方少数民族地区高校旅游日语的教材,又适合导游人员作为导游考试的复习资料,同时也可向来中国南方少数民族地区旅游的广大日本旅游爱好者介绍中国南部,尤其是云、贵、川、桂少数民族风土人情和风貌是很有必要的,既能弥补日语专业缺乏适合少数民族地区旅游经济发展的旅游日语丛书的缺憾,又能满足旅游接待人员学习少数民族地区旅游日语的愿望,还能更好地向日本介绍少数民族的风土人情。为此我们参考国内外旅游资料编撰了这本《中国南方少数民族风情》。本书内容主要以中国南方少数民族风土人情为主。基本内容由少数民族概况、风俗风情介绍、少数民族特产、少数民族歌舞曲艺介绍及少数民族重要景点介绍组成。目的是为导游提供这些少数民族的主要概况、风俗、节日及特产;同时也涉及到少数民族歌舞、曲艺及乐器,少数民族地区重要景点日语导游介绍。为便于学生学习和记忆,对书中难读的地名、人名、专有名词等词汇都整理成了生词表,并且为了提高学习者的兴趣及扩大相关知识面,在每个章节后编入了少数民族的神话和传说,设置了供师生一起思考的问题。

该教材的编写不仅得到了参与编写的老师的大力支持,还得到日本国际交流基金派遣到贵州大学日语系工作的海外青年协力队员市原明日香女士的帮助,市原女士给予很多有用建议并提供了宝贵的参考资料。在最后的审稿中,贵州民族大学外语学院日语外教山口八郎先生付出了大量的时间和精力。贵州民族大学海外协力队员高桥悠贵老师对第一章给出了修改意见,在此对为该书作出努力和给予帮助的各位一并表示衷心的感谢。

由于时间和水平有限,书中错误在所难免,希望同行及广大读者不吝赐教。

编 者

利用の手引

1. アクセントの説明:

日本語の単語のアクセントは隣接する単語の影響で変化することがあります。従って、このように、2語以上の単語が一単語として扱われる場合は－（ハイフン）を用いて結合後の声調変化を示しました。例えば、「民族概況」の場合、「民族」と「概況」を別々に発音すると、「民族①」・「概況①」となりますが、連結した場合、「民族概況(みんぞく－がいきょう)①-①」と記すことにしました。また、まだ日本では定着していない地名など、固有名詞は日本人の普通の発音習慣に従ってアクセント表記をしました。

2. 地名、人名等固有名詞の表記の基準:

現在の日本の教育では、外国の地名・人名は出来るだけ当地の発音を採用し、片仮名を用いるようになってきました。この方針は、例えば、“ハドソン川(The Hudson River)”のように表音文字を用いている言語では問題を生じませんが、漢字の場合、仮に“草海”や“洱海”を現代の中国語の発音で片仮名書きにすると“ツァオハイ”・“アルハイ”となり、両者は湖なので“ツァオハイ湖”・“アルハイ湖”となって中国語の漢字表記と違ったものとなってしまいます。したがって、本書では漢字表記を重視して、“草海(そうかい)”・“洱海(じかい)”としました。また、日本人に膾炙されていない単語についても当面は日本人の伝統的な読み方を採用しました。というのは、今後、普通語の発音が広がって行く可能性はありますが、現在、日本人が日常使っている普通語の発音は“ウーロンチャ(乌龙茶)”と地名の“シャンハイ(上海)”・“カントン(広東)”ぐらいでしょう。しかし、“カントン”の中国語現代音は“クワントン”になります。“クワ”という合拗音はかつて使われていましたが、現在では発音・表記いずれも直音の“カ”に移行しています。従って、現時点では、日本語の漢字音を学んでおいた方が便利だと思われま

目 次

序言	1
前言	1
利用の手引	1
第一章 主な少数民族の概況	3
一、ミャオ族	3
二、ヤオ族	5
三、プイ族	6
四、トン族	8
五、スイ族	10
六、イ族	12
七、ハニ族	14
八、ラフ族	15
九、ナシ族	16
十、ペー族	18
十一、チワン族	19
十二、タイ族	21
十三、トウチャ族	23
十四、アチャン族	25
十五、コーラオ族	27
十六、リス族	28
第二章 少数民族の風俗習慣	33
一、各民族の風俗習慣	33
1. チワン族	33
2. トン族	34
3. ヤオ族	36
4. ミャオ族	37
5. ペー族	40
6. ナシ族	41
7. リス族	42
8. ラフ族	43



9. ハニ族	45
10. タイ族	46
11. アチャン族	48
12. ドウアン族	48
二、代表的な少数民族の風俗	49
第三章 少数民族の祭り	57
一、少数民族の祭りの概況	57
二、ミャオ族の祭り	58
三、パイ族の主な祭り	64
四、スイ族の主な祭り	67
五、イ族の主な祭り	68
六、トン族の主な祭り	69
七、ナシ族の主な祭り	71
八、ハニ族の主な祭り	74
九、チワン族の主な祭り	78
十、タイ族の主な祭り	79
十一、ペー族の主な祭り	82
十二、ラフ族の主な祭り	84
十三、リス族の主な祭り	86
十四、チンポー族の主な祭り	87
十五、モソ族の主な祭り	89
十六、ヤオ族の主な祭り	90
第四章 少数民族のお土産	95
一、貴州省のお土産	95
二、雲南省のお土産	112
三、広西省のお土産	114
第五章 少数民族の芸能	119
一、踊りと歌	120
二、曲芸	132
三、楽器	135
第六章 民族風情観光地	139
一、貴州省における民族風情観光地	139
二、雲南省における民族風情観光地	151
三、四川省における民族風情観光地	158
参考書目	171

コラム目次

コラム1	ミャオ族の霊魂	4
コラム2	トン族の神話について	9
コラム3	スイ族の神話	11
コラム4	イ族と日本の神話について	13
コラム5	ラフ族の神霊	16
コラム6	トンパ文について	18
コラム7	チワン族の宗教信仰	20
コラム8	タイ族の歴史	22
コラム9	トウチャ族の宗教信仰	24
コラム10	アチャン族の善神と悪神	26
コラム11	リス族の「魂名」	29
コラム12	チワン族の人たちは歌を好む	34
コラム13	風雨橋の構造	35
コラム14	太鼓の由来	36
コラム15	プーヌーヤオの「密洛陀」	37
コラム16	ミャオ族の「馬競べ」の由来	39
コラム17	鳳凰帽にまつわるペー族の伝承	41
コラム18	ナシ族の妻問い婚	42
コラム19	ラフ族には動物に関するジンクス	44
コラム20	雲南省西双版纳州のタイ族の伝承「深い絆」	47
コラム21	「龍船祭り」の言い伝え	64
コラム22	イ族には鶏冠帽にまつわる伝承	69
コラム23	ナシ族のトンパ經典の「馬の来歴」	74
コラム24	水掛祭りの起源の伝説	81
コラム25	雲南省大理州鶴慶県のペー族の「創世の神」	84
コラム26	雲南省のラフ族の伝承「枝をこすって火を取る猿」	86



コラム27 チンポー族の伝説	88
コラム28 盤王節祭についての伝説	91
コラム29 なぜミャオ族のロウケツ染に蝶蝶の図案がよく出ているか	102
コラム30 銀がないと、女の子にはなれぬ	105
コラム31 地劇について	110
コラム32 占里村の人々の幸せな生活	148

本章では、西南少数民族の風情を鳥瞰するために、まず最初に西南地方における主な少数民族の概観から、各少数民族の分布、言語、宗教信仰と歴史を知っていただきます。本章を読むことによって、第二章以降で展開される内容のプロットとそこで紹介される知識の関連を知ることができます。

第一章 主な少数民族の概況

一、ミャオ族

ミャオ族は主に貴州省、雲南省、四川省、広西チワン族自治区、湖南省、湖北省、広東省などの地に居住しており、大規模集中型居住地区もあり、小規模な居住地区もあり、更に他民族とともに居住している地区もあります。特に、貴州省にはその半数近くが居住し、あたかも省を代表する民族のようです。

ミャオ語を使い、この言葉は、漢・チベット語系、ミャオ・ヤオ語族、ミャオ語派に属します。ミャオ語には湖南西部の東部方言、貴州東部中部方言と四川、貴州、雲南の三省に跨がる西部方言という三大方言があります。大方言の中に小方言の分支がありますが、ミャオ族は分布領域が広大で、自然環境の差もあり、この三大方言の差異は大きく、互いに話が通じないほどです。しかし、さまざまな民族がともに居住している地区のミャオ族の人たちは、それぞれ漢、トン、チワン族の言葉を話すことができます。以前ミャオ族には統一の文字がありせんでしたが、1956年に、四種類の方言を表現する表音文字を創出しました。

ミャオ族の人たちは万物に靈魂があるとする原始宗教を信仰しています。

ミャオ族は中国では長い歴史をもつ民族の一つであり、既に四千年前の史籍に「南蛮」と称されていました。氏族あるいは集落についての記述の中にミャオ族の祖先について触れられたものがあります。古い伝説や伝記の中に触れられている黄帝、炎帝と合戦したり、講和したりした蚩尤は、ミャオ族の人たちの祖先とみなされています。

ミャオ族の人たちは自分たちのことを「牡(ムー)」、「蒙(モン)」、「毛」、「果雄(コ・ション)」、「帯叟」などと称して、各地に分布しております。また一部の地方では服飾の特徴などによって、「ミャオ」の前に「長裙ミャオ」・「短裙ミャオ」・「長角ミャオ」・「赤ミャオ」・「黒ミャオ」など異なった名称が用いられています。

漢の頃からミャオ族の人たちは湖南省の西部、湖北省の西部、四川省の東部、貴州省の東部に住むようになり、戦乱、飢饉、疾病および過剰な出産、耕地の荒廃などによって、あちこちへ移住し、言葉、服飾、頭の飾り、習慣が大きく異なるようになり、社会の発展もアンバランスになりました。



新出単語

トン ①[名]	侗(族)
チワン ⑩[名]	壮(族)
常世(とこよ) ③[名]	长生不老之国, 黄泉
長鳴鳥(ながなきどり) ④[名]	长声鸣叫鸟
天照大神(あまてらす-おおみかみ) ①-②[名]	天照大神
蚩尤(しゅう) ①[名]	蚩尤
牡(ムー) ①[名]	牡
蒙(モン) ①[名]	蒙
毛(マオ) ⑩[名]	毛
果雄(コ・シオン) ②[名]	果雄
帶叟(タイソウ) ⑩[名]	帶叟
服飾(ふくしよく) ⑩[名]	服飾
長裙(チャンチュン) ②[名]	长裙
短裙(トウアンチュン) ③[名]	短裙
飢饉(ききん) ②①[名]	饥荒, 缺乏
疾病(しっぺい) ⑩[名]	疾病
アンバランス ④[名]	不平衡

コラム1

ミャオ族の靈魂

ミャオ族の人たちは万物に靈魂があるとする原始宗教を信仰しています。貴州のミャオ族も人がそれぞれ靈魂を持ちますが、死後、それが三つになると考えてきました。即ち、一つは自分の墓を守り、一つは自分の家に戻って子孫を守り、今一つは祖先発祥の地に行って「審問」を受けた後、現世の人間に再生するというものです。そのため故人に対して近親者や友人は職能者に依頼して、先祖が辿ってきた道程を知らせ、道に迷うことのないようにします。この信仰はイ族にもあり、彼らの歴史を知る手掛りにもなっています。

ミャオ族の神話によると、昔 12 対の太陽と月が同時に出たので桑扎という男がその内の十一の日・月を射落としました。残った太陽と月は天(の)岩に隠れてしまって天地は真っ暗になったので、人々は太陽と月を呼び戻す相談をしましたが、そこで雄鶏が名乗り出て鳴くと太陽が天の岩から出てきました。この鳥は『日本書紀』などにも「常世の長鳴鳥(異境から招聘した長く鳴く鳥)」として登場し、天照大神を「天の岩戸」から呼び戻しました。



一緒に考えましょう

1. 伝説によって、ミャオ族の祖先は蚩尤です。蚩尤にまつわる伝説は知っていますか。よく調べてみてください。
2. ミャオ族と言えば、黒苗、花苗、生苗、熟苗、三苗という語が出てきます。それぞれは、どういうことですか。

二、ヤオ族

ヤオ族は主に広西チワン族自治区に分布して、総人口の約70パーセントを占めていますが、湖南、雲南、広東、貴州などの各省にも分布しています。その居住状況の特徴は、全体としては分散していますが、集中して居住しているところもあります。ヤオ語を使用します。ヤオ語は漢・チベット語系のミャオ・ヤオ語族、ヤオ語分支として分類されています。ヤオ語は三種類の言語の総称で、ミエン（勉）語・プヌ（布努）語・ラジャ（拉珈）語という三つの方言に大別されています。各地のヤオ族の人たちの間では言語の差異が大きく、お互いに言葉が通じないくらいです。ヤオ族の人たちは日頃、チワン語と漢語を使用しています。自民族の文字は持たず、漢字を使用しています。

ヤオ族は中国では長い歴史をもつ民族の一つで、ルーツは古代の“荆蛮”・“長沙武陵蛮”・“莫瑶”・“蛮瑶”であるとみられています。ヤオ族は“勉”・“金門”・“布努”・“拉珈”・“炳多優”などと自称しています。それぞれ異なった生業や、居住地域・服飾・頭の飾りによって、数十種の異なった呼称があります。例えば、盤瑶・山子瑶・頂板瑶・花藍瑶・過山瑶・白褲瑶・紅瑶・藍テン瑶・八排瑶・平地瑶・オウ瑶・茶山瑶・背簍瑶などがそれであります。これらの呼称の中に「瑶」という字があるので、新中国成立後“ヤオ族”と総称されることになりました。地域の自然環境が異なっているため、ヤオ族の社会経済の発展は非常にアンバランスです。人口の大部分は農業に携わり、林業とその他の副業にも携わっていますが、基本的には自給自足の自然経済で生活しています。国の大きな支援で、ヤオ族地区の経済と文化事業は大きな発展を遂げています。

ヤオ族の信仰については、地域によってアニミズムや祖先崇拜またシャーマニズムがあり、漢族やチワン族の影響を受け、道教・仏教を信じている人達もいます。宗教儀式は共に道教の影響が強いと言われています。また、ヤオ族の人々には靈魂不滅の観念が普遍的に存在し、冥界へ旅立つ個人の遺体処理が丁重に行われ、しばしば帰宅して家族を守ってくれるように祈ります。しかし、多くのヤオ族の信仰では、靈魂は鬼であり、また神にもなり得るとし、鬼の場合、悪人は悪鬼に、善人は善鬼になりますが、これも死に方にもよるといいます。そして善鬼が家を守ってくれますと思



われます。

新出単語

荆蛮(けいばん) ①[名]	荆蛮
長沙武陵蛮(ちょうさ-ぶりょうばん) ①-③[名]	长沙武陵蛮
莫瑶(モーヤオ) ①[名]	莫瑶
蛮瑶(マンヤオ) ①[名]	蛮瑶
勉(ミエン) ①[名]	勉
金門(チンメン) ①[名]	金门
布努(プヌ) ①[名]	布努
拉珈(ラジャ) ①[名]	拉珈
炳多優(ビントウオヨウ) ④[名]	炳多优
盤瑶(パンヤオ) ①[名]	盘瑶
山子瑶(シャンズヤオ) ③[名]	山子瑶
頂板瑶(テイバンヤオ) ③[名]	顶板瑶
花籃瑶(ファランヤオ) ③[名]	花篮瑶
過山瑶(クオシャンヤオ) ④[名]	过山瑶
白褲瑶(パイクウヤオ) ④[名]	白裤瑶
紅瑶(ホンヤオ) ①[名]	红瑶
藍靛瑶(ランテイエンヤオ) ④[名]	蓝靛瑶
八排瑶(パーパイヤオ) ④[名]	八排瑶
平地瑶(ピンテイーヤオ) ④[名]	平地瑶
オウ瑶(オウヤオ) ②[名]	坳瑶
茶山瑶(チャーシャンヤオ) ④[名]	茶山瑶
背篋瑶(ペイロウヤオ) ④[名]	背篋瑶
靈魂不滅(れいこん-ふめつ)①-③[名]	灵魂不灭



一緒に考えましょう

1. ヤオ族は犬祖神話を伝える民族ですが、その神話はどういう話ですか。
2. それぞれ異なった生業や、居住地域・服飾・頭の飾りによって、ヤオ族は数十種の異なった呼称がありますが、三つあげてください。

三、プイ族

プイ族は主に貴州省の南部と南西部の二つの布依族苗族自治州・鎮寧・関嶺・紫雲などの自治県、華節・遵義・黔東南などの地区に居住し、一部は雲南省の羅平・四川省の寧南・会理にも居住しています。特に、貴州省南端、プイ族・ミャオ族自治州